

杉谷山 南専寺

福井県大野市下唯野 18-10

歴史

文明7年(1475)9月に加賀一向一揆が起きると、井波瑞泉寺(真宗大谷派、富山県南砺市)の3世・蓮乗(蓮如の次男)が吉崎本廟(あわら市)の本尊並びに御真影を避難させ守護するために建てたのが、南専寺の始まりです。文亀3年(1503)、3代賢誓の時、実如(蓮如の子)が吉崎に下向した際に南専寺の寺号を得て、瑞泉寺から分かれました。

もとは別の場所に建っていましたが、7代賢周(～1678)のときに現在地に移転しました。

境内

南専寺の境内は、正面に山門を構え、中央に本堂、そして庫裡が接続し、その奥に庭園が配されます。山門の脇には鐘楼が立ちます。山門と庭園が福井県指定文化財に指定されています。

文化財

山門(福井県指定文化財)

◆山門の建築

山門は、正面 2.72m、側面 2.26m、主柱の前後に控え柱を設ける「四脚門」という形式で、屋根はカーブを描く「唐門」で、御殿など上質な建物に用いられる門のかたちです。柱などはケヤキの上質な材料を用います。彫刻を多用することも特徴で、彩色を施した跡もみられ、とても華やかな門だったようです。屋根は現在銅板葺きですが、元は檜皮葺きという高級な屋根葺き材でした。

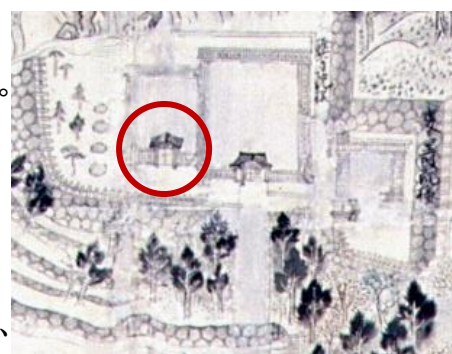


山門(正面から)

◆建築年代と移築の経緯

門が建てられたのは、江戸時代前期、最初は南専寺山門としてではなく、福井藩松平家の廟所門として、永平寺境内に建てられました。

寛文12年(1672)、福井藩四代藩主・松平光通が、正室・清池院の墓所を建立し、その正門として建てられました。福井藩の大工の作で、場所は永平寺境内の一角の松平家廟所にありました。その後、安永7年(1778)、松平家廟所の再整備により、門は一旦解体されましたが、同9年(1780)に南専寺で再建されました。移築の経緯は、当時、南専寺に娘が嫁いだ豪農・島田家(勝山市)が、嫁入りの記念に建てたと伝わります。



「永平寺寺境絵図」部分(永平寺蔵)
松平家廟所に描かれる門(赤丸)

◆文化財としての価値

移築から200年以上、大切に守り継がれ、昭和40年に大野市指定文化財に、平成25年には福井県指定文化財に指定されました。福井県内において、江戸時代前期と早い時期に彫刻と彩色が施された例であり、福井藩の数少ない遺構としても貴重です。



山門の彫刻(背面から)

◆ 令和の大修理

令和に入り、建築から約 350 年、そして移築から約 240 年を経て、傷みが激しく、大規模な修理が必要となりました。修理は令和2年から2年がかりで、一つ一つの部材を丁寧に取り外して解体し、腐朽した部分を繕い、組み立てていきました。この修理によって、建物が再び健全な状態となり、次代へと受け継がれていきます。



解体され、繕われた部材(写真は見学会)

◆ 南専寺山門のここがすごい！

✿ 動物や植物がいっぱい！

たくさんの彫刻と彩色が施された華やかな門。たくさんの動物や植物などが見られます。鳳凰と紅葉、龍、菊の花、そしてうさぎと波…ぜひ見上げてみてください！

✿ 実は^{かざり}銚金具にあらず！のすご技

垂木^{たるき}の先端には^{かざり}銚金具が…とよく見てみると、銚金具ではなく、木を彫り出し、彩色して銚金具風に仕上げています…！全国でも例が少なく、大徳寺唐門(京都市、国宝)と一緒にそうです。



山門の動物たち

✿ 福井藩お抱え大工が造り、永平寺大工が移築！

福井藩四代藩主・松平光通が建てたお寺に、福井市の大安禅寺があり、福井藩のお抱え大工によって造営された建物は、国重要文化財に指定されています。南専寺山門も松平光通によって建てられ、門の部材には、大安禅寺を造営した大工や彫り物師の名前が見られます。

さらに南専寺の移築時には、永平寺大工の玄之源左衛門が中心となったことが、棟札からわかります。



銚金具風に彫り出した垂木
(先端の銅板は後世の養生)

庭 園(福井県指定文化財)

庭園は本堂と庫裏の南側に位置し、回遊式林泉庭園という形式です。正面築山上に三尊石組が組まれ、対岸の汀には礼拝石が据えられています。園地には鶴島・亀島と目される2島がみられ、鶴島には、自然石の石橋が架けられています。向かって左手、導水路の途中に滝石組に類するものが組まれ、滝副石に相当する石もみられます。

庭園は池の汀をまわり、飛石段から三尊石組の前を通り、左方の石橋を渡って回遊できるようになっています。庭園の遺存状況は良好で、作庭当初の姿を良く残しています。



庭 園

参考 『福井県指定有形文化財 南専寺山門修理工事報告書』(宗教法人南専寺、令和4年)

作成 大野市教育委員会事務局生涯学習・文化財保護課、福井県教育庁生涯学習・文化財課